

5/6 朝日

コロナ下3年死者13.5万人増

感染拡大後地方で増加めだつ

新型コロナウイルス感染症の流行が2020年に始まってからの3年間で、コロナ以外の死因も含めた国内すべての死者が、流行前の水準をもとに厚生労働省研究班が算出した死者数の予測値より計13万5千人多かったことがわかった。死者の多さが当初、都心部で注目されたが、人口当たりで見るど、感染が広がるにつれ、地方で多くなっていた。

▼2面=コロナ禍、間接的にも影

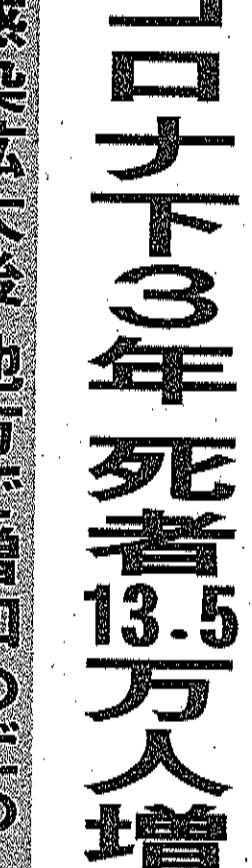
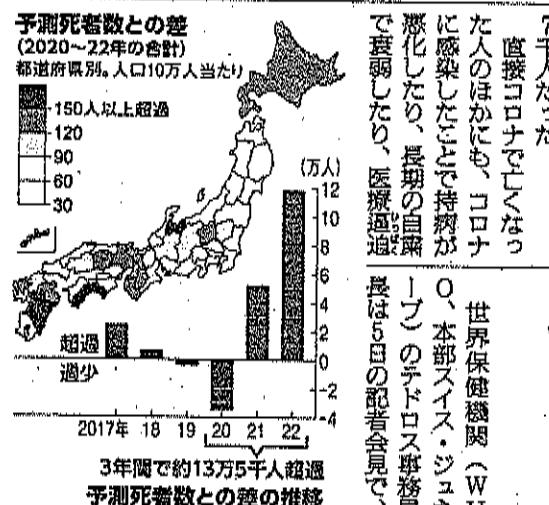
研究班は、過去5年の死者データから「例年の水準の死者数」を予測している。実際の死者数と比較することで、コロナによる大規模な感染症や災害が社会に与えたインパクトを推し量ることができる。

朝日新聞は、幅がある

予測死者数との差(2020~22年の合計)都道府県別、人口10万人当たり

都道府県	予測死者数	実際の死者数	差
東京都	150人以上超過	120人	30人
大阪府	120人	90人	30人
兵庫県	90人	60人	30人
福岡県	60人	30人	30人
その他	30人	30人	0人
合計	430人以上超過	330人	100人

年ごとに、20年は予測より約3万5千人少なかった。コロナがまだ広がっていないかたたまて報告された数は約5万方



や受診控えのために必要とな治療が受けられなかつたりして亡くなつた人が多かつたとみられる。

死因別では、心筋梗塞や脳卒中といった循環器の病気、肺炎など呼吸器の病気、老衰などの増加

が顕著だった。

人口当たりの死者は、急増。3年間の累計で

は、富崎や高知、島根な

どが多かつた。

研究班の代表で東京大

の織川真弘教授(医学)

は「コロナに感染して亡

くなった人以外にも、感

が顕著だった。

人口当たりの死者は、急増。3年間の累計で

は、富崎や高知、島根な

どが多かつた。

研究班の代表で東京大

の織川真弘教授(医学)

は「コロナに感染して亡

くなった人以外にも、感

WTO、緊急事態解除へ

世界保健機関(WHO)は、本部スイス・ジュネーブのネドロス事務局長は5日の記者会見で、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を解消する方針を明らかにしていることを受け、「緊急事

新型コロナウイルスをめぐる世界の現状について、3年前に宣言した

「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を解消する方針を明らかにしていることを受け、「緊急事

態」を直面。感染が国境を超えて広がり、拡大防止に国際的な緊急の対応が必要な場合に出される

もので、6月の直面だつた。(ロイター=共同)

した。WHOは2020年1月30日、中国・湖北省武漢市で新型コロナによる肺炎が集団発生し、

感染後、持病が悪化して亡くなる人もいた。感染拡大による様々な間接的要因が重なり、国民の健康に大きな負の影響を日本語で「感染拡大」と語る。(編集部・社外報、小吉田泰樹)